

こどもエコクラブ交流会

～出合い、輪を広げよう～

実施報告書



この行事は、公益信託オータケ記念愛知自然環境保護基金の助成を受けて行いました。

★ この報告書は、当会ホームページでご覧いただけます。

行事概要

開催日時：平成 25 年 9 月 8 日(日) 10:15～15:50

開催場所：エコハウス 138

主催：NPO エコバンク Japan 共催：こどもエコクラブ全国事務局

後援：環境省、愛知県、一宮市 協賛：トヨタ自動車株式会社

保険：年間を通じ、以下の団体保険に加入

引受会社 富士火災海上保険会社

契約内容 対人賠償 1事故あたり限度額 10億円

1人あたり限度額 3億円

財物賠償 1事故あたり限度額 3億円

当行事期間中の保険契約内容

国内旅行傷害保険

死亡後遺障害 1人あたり 1千万円

入院保険金 5000円

通院保険金 3000円

個人賠償 5千万円

募集の経緯

4月 助成金の決定後、準備を開始

7月 後援申請その他の準備を終える
全国事務局の協力を得て、参加者募集の書類を発送する

8月 参加者に参加決定、参加案内の書類を発送する

9月 交流会開催

参加者 たかくらこどもエコクラブ(春日井市)
たかだチーム(江南市)
ティンクルズ、(名古屋市)
半田こどもエコクラブ(半田市)
イオン四日市尾平チアーズクラブ(四日市市)
HMKクラブ(名古屋市)
三重県環境学習情報センター より 合計 44名

この他、講師 5名、こどもエコクラブ全国事務局 2名、当会会員 2名、
行事補助スタッフ 7名

視察 愛知県、一宮市 より 合計 3名、ケーブルテレビ ICC の取材あり

見学者 2名

行事内容

<体験プログラム> 10:45~12:15

1. かわぐちさんと遊ぼう:ビオトープ探検

10時45分の開始時の天気が思わしくなかったため、室内で食物連鎖についての話や講師がこどもの頃に自然と慣れ親しんだ体験談を聞かせていただいた。開始後30分ごろには天気が回復してきたため、屋外に出てビオトープ探検を行った。



2. くみちゃんで作ろうテラリウム:テラリウム工作

まず、「テラリウムとは何か」の説明を受けた。

★テラリウム(小さな地球)……地面や植物から蒸発した水分が雲となり、雨となって再び地上に戻った水を利用して植物が成長する『自然の循環系』を、透明なビンの中に人工的に作り、その中で植物を育てる方法

土づくりでは、プラスチックスプーンと割り箸を使ってスコップを作り、赤玉土、バーミキュライトを6:4に混ぜあわせた。根腐れ防止のための珪酸白土をビンの底にひと並べし、レカトン(植え込み材)、土を入れ、好きな植物を植えこんだ。植物は、テーブルヤシ、ワイヤープランツ、ミンゴニウム、プミラ、アイビー、フィデンドロン、ハツユキカズラなど。

完成したテラリウムは各自が持ち帰った。



3. せいぞうさんと水を考えよう:水の浄化実験

最初に、実験の概要をつかむために、映像を使って説明を受けた。その後、1人か2人で1台のろ過機を使用し、実験した。

用意してあった汚れた水の透明度を測っておき、その水をろ過機を使ってきれいにした後、もう一度透明度を測って比較した。ろ過機の中の水に薬品を入れ、攪拌を始めると水と汚れが分離し始め、しばらく攪拌後攪拌を止めると、汚れが底に沈殿した。グループによって薬品の量を変え、沈殿する汚れの量に違いが現れることを確認した。



<みんなの活動発表！>13:00～14:00

- ・参加クラブの内、4クラブが日頃の活動を発表した。
- ・参加順序は予め決めておかず、希望順とした。
- ・参加者には「活動発表取材シート」を配り、それぞれの発表について気がついたこと、質問、感想などを記入してもらい、発表後に該当クラブに渡した。
- ・「活動発表シート」の狙いは、他のグループの発表に関心を持って聴き、自分たちの活動の参考にすることと、他のグループからの視点を知ることにより自分たちの活動を見直す機会とすることにある。



＜壁新聞の取材・作り方講座＞14:00～15:00

- ・会場には、全国のエコクラブが作った中で受賞した壁新聞が掲示されており、「壁新聞取材シート」を使って、自由に取材した。
- ・「取材シート」は、こどもエコクラブ全国事務局を通じて、壁新聞を作製したエコクラブに届けられる。
- ・作り方講座は、時間の関係で参考事例を使っての説明をすることができなかったが、講師が事前に準備しておいた「壁新聞を作るポイント」をまとめたリーフレットを配布し、参考にしてもらうこととした。



<環境質問コーナー>15:00~15:45

- ・事前に質問を紙などにまとめてくるように指示してあったが、会員からの質問はなかった。
- ・サポーターからは、「日頃環境のために良いと思って行っている行動が、本当に良いのかと疑問に思うことがある」との発言があった。講師からは、「確かにそう感じることはある。状況や場合によってはよい方法は異なることもある。柔軟に対応していきましょう」とアドバイスがあった。

講師より・・・

- ・環境問題は、水・空気・ゴミ・エネルギー・生態系・温暖化など広い分野に関わっており、一つのことにのみ焦点をあてていては問題は解決できない。全体のバランスを考えつつ、個々の問題に取り組むことが大切である。
- ・いろいろなことを学び知識を増やすことと、体験をすることの両方が大切で、偏らないよう心がけよう。
- ・皆さんの現在取り組んでいる活動は、水であったり、森林であったり、生物であったりと様々である。環境問題への入り口はたくさんあり、どこからでも構わない。家族や友達と話し合ったり、調べたり、このような行事に参加して、より大きな問題へと関心を広げてほしい。

<交流タイム>行事開催時間内

参加者には、事前に名刺を作ってくるよう指示がしてあり、名刺交換などをして自由に交流する時間を持った。

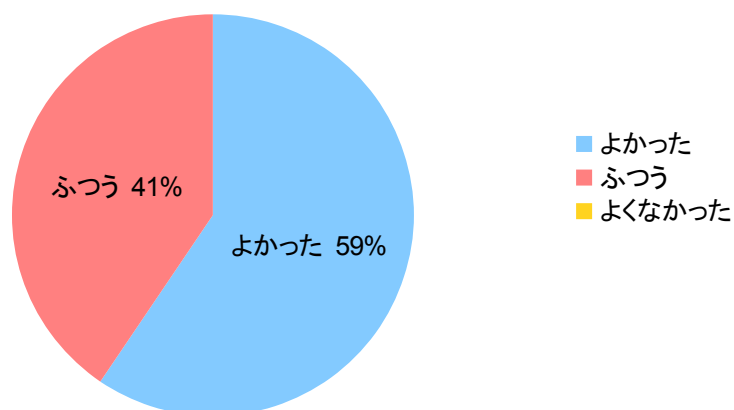


席を立って自由に動き回り、名刺交換をして和やかに交流でき、予定のプログラムを終了したこともあって緊張が解け、行事を笑顔で締めくくることができた。最後に現れたエコまると記念写真を撮り、閉会となった。

アンケート結果

①体験プログラム	よかった	ふつう	よくなかった		合計
1. ビオトープ	10 (含 すごく よかった1)	0	0		10
2. テラリウム	12	2	1		15
3. 水の浄化実験	6	0	0		6
4. 不明	3	3	0		6
②活動発表	22	15			37
③壁新聞	21	13	1	やっていない2	37
④環境質問	12	23	1	不明 1	37
⑤行事全体	22	15	0		37
⑥他の人との交流	よくできた 11	できた 23	あまりできな かった 3		37

行事全体評価



⑦感想・意見

- ・ほかの子たちとこうりゅうできたし、かんきょうのことも学べた。
- ・すごく楽しかったし、また参加したい。
- ・とても楽しかった。
- ・環境のことが楽しく学べた。
- ・いろいろな人の壁新聞が見れて楽しかったです。
- ・参加されたクラブの実せきが直接わかっていい機会でした。
- ・環境保全に対する皆さんの熱い思いが伝わってきて、自分のクラブも頑張ろうと思いました。
- ・少し空調の温度が低く、さむかった。
- ・交流会を通してさまざまなことがしれてよかった。
- ・ろかそうちを作ってみたい。そしてもちかえりたい。(できたらでどうぞ)
- ・活動発表は、ちゃんとできたのでよかった。
- ・空調が少しさむかったので、なおして(調節して)ほしい。
- ・場所的に交通の便があまりよくないのかな？(i-バスの本数が1時間に1本なので)
- ・開催ありがとうございました。

行事の成果

・昨年度まで、愛知県が県内のこどもエコクラブが参加する地域交流会を開いてきたが、今年度は当会がこどもエコクラブ全国事務局と共催で当行事を開催した。愛知県外にも参加者を広く募集した結果、全体として6クラブ（愛知県5クラブ、三重県1クラブ）の参加となった。参加クラブの数は予想を下回ったものの、三重県環境学習情報センターからの参加を得、今後近県との交流を進めていく足掛かりを作ることができた。

・プログラムには、自然観察・環境工作・化学実験を取り入れ、座学のみではなく、こどもたちが自分の手や体を使う体験プログラムとした。アンケート結果から、体験学習は評価が高く、成果があった。

・他のグループの発表に関心を持って聴くことを促すために、「活動発表取材シート」を渡して、発表に対する自分の感想や意見を記入してもらった。発表後に該当クラブにシートを渡し、自分のメッセージを伝えることができた。また、発表したクラブが他のクラブからメッセージをもらったことは、今後の活動を進めていくうえで励みになると思う。

・壁新聞の取材・作り方講座では、全国事務局の協力を得て、受賞した壁新聞を掲示した。今後自分たちが壁新聞を作る際に参考にしよう、自由に見て回り、質問や感想、メッセージを「壁新聞取材シート」に記入し、その壁新聞を作製したエコクラブに届ける。届け先のエコクラブには、可能な限り返信していただくようお願いし、交流が深まることを期待している。作り方講座は、時間の関係で参考事例集を使っただけの説明を行うことができなかったが、講師が事前に準備した「作り方のポイント」をまとめた資料を配布し、参考にしようとした。

・今回環境質問コーナーに招聘した講師の方は、それぞれ専門はあるものの、様々な分野で環境問題にかかわった経験をお持ちで、大変有意義な助言をいただくことができた。環境問題は、一つの分野の問題だけではなく多面的にバランスを持って考えること、現在のみではなく将来も見据えて取り組んでいくことが重要であると教えていただいた。また、いろいろなことを調べたり学んだりして知識を蓄えることと、実際に体験することの両方を心がけようと参加者に語りかけていただいた。参加者の年齢やこれまでに受けてきた環境教育の段階の違いがあるので、必ずしも全員がすぐに理解できる内容ではなかったかもしれないが、エコクラブ活動が目指す方向に導いてくれる助言であった。

・参加者が事前に作ってきた名刺を交換して交流を深めることができた。席を立て自由に関わり合えることができ、和やかな雰囲気を楽しんでいた様子であった。

今後の課題

- ・施設の空調が一括管理のため各部屋で温度調整ができず、部屋のドアを開け放つなどしたが、やはり室温を上げてほしいという声があった。建物の構造上の問題なので今後も温度調整はむずかしい。今後は、参加の案内資料の中の持ち物に、温度調節ができるように上着を持参することを付け加えておく必要がある。

- ・アンケートの自由意見に、今回の行事の会場となる施設へのアクセスがあまりよくないと指摘があった。公共交通機関利用の場合、一宮駅から1時間に1本のiバスしかないため、不便さは否めない。

会場の広さ、プログラム内容に沿った設備、賃借料、交通手段などを考慮し、次回は一宮駅にもっと近くて遠方からも来易い施設を検討する必要がある。

- ・より広範囲からの参加を促すために、交通費の支給対象の検討など方策を考える。

- ・活動発表は、参加者が自ら進んで発表する場を意図し、事前に発表順序を決めないで挙手を求めたが、あまり積極的な反応ではなかったのは、やや残念であった。発表に対する質疑応答も活発とは言えなかった。もっと活発な活動発表の場となるよう工夫が必要である。

こどもエコクラブの活動自体が弱まっており、本来のこどもエコクラブ活動の目指す「こどもの自発的な興味・関心、自発的な学び、自発的な活動」へ導けるよう、サポーターの養成が重要だと考える。当会では、今後サポーター同士の交流の場や情報交換の場を設けて、他のクラブの活動事例を参考にしたり、長年サポーターとしてクラブの運営に関わってきた経験者からアドバイスを受けて、環境の専門家に相談したり、レクチャーを受ける機会を提供して、サポーターのサポートに力点を置く。

以上、課題はいくつかあるもののすでに検討を始めており、次回開催がさらにこどもエコクラブ活動の推進力となることを目指している。